



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030

伊原 忠 ☎047-488-7207

飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党
八千代市議団
ホームページ

<https://jcp-yachiyo.jp>

日本共産党八千代市議団メール：kyousan@jcp-yachiyo.jp



第642号

2024年7月22日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

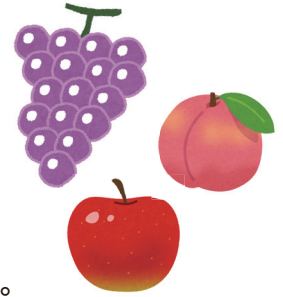
新規就農者を全国から受け入れている須坂市

農家の後継者がいないために耕作放棄地が増えていく光景が年々全国で広がっています。食料自給率がたった38%の日本農業はどうなるのか。

日本共産党市議団は、新規就農者を増やすため、先進的に取り組んでいる長野県の須坂市を視察しました。

須坂市は長野県の北東部にあり、面積149.84km²、人口49,430人。ブドウ、リンゴ、桃、などのフルーツ産地です。もちろん米、野菜農家もあります。

新規就農者は果樹栽培を目指す人が多く、就農の相談会を県外にも広げています。特産品のイベントやPR活動も積極的です。15年間で市外から34組が就農し、離農はゼロです。



農業の里親制度「里子が成長し里親に」

「農業じゃメシが食えない」といわれるご時世で、どのように新規就農者を増やしているのか。そのヒントが須坂市にありました。

就農するには「資金」が必要。そして次は「環境」の住居や畑や農地の提供。更に「技術」の習得が必要です。この心配をクリアできるように保障しているのが須坂市です。須坂市の就農への道のりは①就職先の検討②就農体験③就職先の決定④研修(2年間の里親研修)⑤独立です。

視察で紹介されたビデオは、千葉県で農業とは関係ない仕事をされていた方が農家になるまでの記録でした。須坂市の里親制度を利用して、ブドウ農家の里子になり、研修を経て、独立しました。そして、賞を得るようなブドウ農家になり、自らも里親として、若い新規就農者を育てているのです。須坂市は農業をしない他の家族には就職の世話をしています。

独立するまで5年程度はかかるので、その間の支援を行っていきます。就農してからも互いに交流・研鑽・相談するためのサークル(きじまるクラブ)もあります。

「農業でメシが食えるよう」に向けて

「農業で里親」とはどういうことなのか興味津々でした。「子どもを育てるように農業後継者を育てなければ、日本の農業は再生できない」という意味合いです。

須坂市の今後の課題は①後継者不足②遊休農地の増加③ブドウ園の不足④リンゴ、桃園の減少⑤農家所得の更なる向上だと話しています。

後継者不足の一番の理由は「農業ではメシが食えないから」です。物を作る喜び、美味しく安全なものを作り、食べた人たちが喜んでくれることが農家の喜びです。農家の所得向上のために国は価格保障と所得補償をすることが重要です。

「行政が本気になれば農業が発展する」ということが実践できるように八千代市でも生かしていきたいと思います。